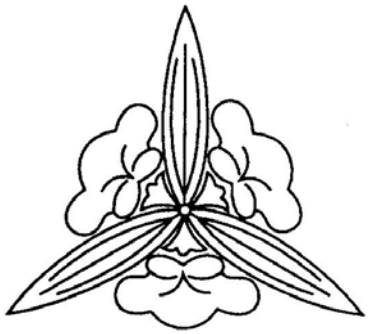
平成２７年度

「授業改善推進プラン」



武蔵野市立第一中学校

学力向上を図るための全体計画（平成27年度）

武蔵野市立第一中学校

学力向上のための基本方針及び指導の重点

学力向上のための基本方針

全国学力・学習状況調査や東京都の学力向上を図るための調査の結果を踏まえ、定期考査や日常の授業の様子などを基に、一人一人の基礎的・基本的な知識・技能の習得による確かな学力の向上を図るとともに、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。また、効果的なＩＣＴ機器の活用促進を図り、学力向上につなげるよう一層の工夫を加えていく。

指導の重点　個に応じた指導を展開し、効果的な指導方法の工夫と更なる指導内容の充実を図るために、以下を指導の重点とする。

1　国語科では、日常の言語環境・言語活動を整えることや生徒の能力に応じた個別の支援を充実させていく。発問に対する自分の考えを書く習慣を定着させ、粘り強く読み取る姿勢を培う。知識的な側面については、反復学習の機会を増やすことでその定着を図る。

2　社会科では、思考・判断・表現の能力を高めるため、ＩＣＴ教材などを多用して、五感に響くような教材や教授法を研究し授業に反映させていく。また、３年生については、「社会的な思考・判断・表現」の観点を中心に能力を高めるため、論述式の設問を小テストや定期考査に積極的に導入していく。

3　数学科では、計算力を確実に向上させるために多様な課題を取り上げ、既習内容の確認をしていく。また、図形分野では、図解による解説を多く取り入れると共に、反復練習により定着を図っていく。習熟度別授業を多く取り入れ、個に応じた指導の充実を図る。

4　理科では、非常に高い関心を意欲につなげ、探求する面白さを体感することで、科学的な思考・表現や知識・理解の向上につなげていくために、思考の過程を分かりやすく提示したり、数式やグラフ、図など、いろいろな方法を用いて表現する工夫を行っていく。

5　英語科では、基礎・基本の定着を目指して授業を組み立てるとともに、習熟度を考慮した少人数授業を実施し、個に応じた指導の充実を図る。また今年度は特に「自分の考えや意見を英語で伝え合う言語活動」を継続的に行い、表現力が更に高まるように指導の工夫を行っていく。

6　上記以外の各教科も、生徒主体の学習活動や言語活動を取り入れた一層の授業改善を図り、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

本校の授業充実に向けた視点

指導方法・指導内容の工夫	評価活動の工夫	校内研修・校内研究の工夫	その他の工夫
1　全教科が言語活動を一層充実させ、思考力、判断力、表現力の育成を目指し、授業の工夫・改善を図る。 2　記述問題を定期的に課し、文章で根拠等を示すような論理的な表現を丁寧に指導する。 3　ＩＣＴ機器を積極的に活用し、生徒の発見・理解の促進や、あるいは興味・関心を高める等、効果的な利用を図る。	1　校内研修会にて評価方法の研修・確認を行う。特に各教科における「思考・判断・表現」の評価規準の見直し、学校全体としての評価方法を統一するための工夫改善に努める。 2　評価結果を教育相談等にて生徒、保護者に提示し、具体的な助言を行う。 3　各学期始めに学習内容・評価基準・評価方法を示した冊子を生徒・保護者に配布する。 4　各学期各教科の評価・評定を成績会議にて総点検し、その信頼性を高める。	1　本年度の校内研修の主題「思考力・判断力・表現力の育成～言語活動の充実を通して～」のもと、研究を進める。 2　東京都言語能力向上拠点校の指定を受け、総合的な学習の時間や行事の取組を言語活動の視点で捉え直し、その充実を図ることにより、思考力・判断力・表現力を育成し、課題解決能力を一層高めていく。 3　言語活動を取り入れ、思考力・判断力・表現力を育成する授業の構築及びその評価方法の工夫をねらいとした研究授業を全教員が行うとともに、他教員の研究授業を年３回以上参観する。	1　プレゼンテーション力やコミュニケーション力の向上を図るため、全校体制で１分間スピーチに取り組む。 2　全学年、夏季休業中に学習補充教室を実施し、基礎・基本の定着に努める。 3　年２回の読書週間を設定し、豊かな心や情操をはぐくみ、知的好奇心や表現力等を育成す。 4　学習支援教室や学習相談を充実させ、学習指導員やＴＴ・ＴＡの活用により、基礎・基本の定着及び発展的学習の取組を支援する。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第１学年・国語科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言語事項」を中心とする期末考査の平均正答率は 67.0%であった。特に、「読むこと」については現時点で個人差が大きくついている。 授業に臨む姿勢は概ね良好であるが、考えることを諦めがちな生徒や、学習習慣が身に付いていない生徒が一定数いる。このことが学力差にも影響していると考えられる。 ２　観点別分析 ①　話す・聞く能力 スピーチや朗読などには意欲的に取り組んでいる。声も一生懸命出そうとするが、アイコンタクトなど相手に伝えるという意識をもって発表ができている生徒は少ない。また、準備に臨む意欲にも個人差が見られる。 ②　書く能力 条件作文では懸命に課題に取り組むが、まだ条件に従うにとどまり、自ら文章を組み立てるところまで高めるところまでに至っていない。 ③　読む能力 説明文において、具体と抽象、事実と意見といった基本的な部分の理解度に差が大きい。また、物語においては、心情語に着目はできていても、物語の文脈の中で捉えたときにその語から心情を読み取ることに課題がある生徒が多い。 ④　言語についての知識・理解・技能 学習状況の定着を把握するために繰り返し小テストを行っている。漢字は毎回８割程度の出来である。ただし、できる生徒とできない生徒が固定化しつつある。	１　内容別の指導方法について 自分の意見をもたせるために、まず自分の意見を書かせる、意見交換をさせるという活動を多く取り入れてきたが、課題の難易度が上がると最初から諦めがちな生徒が増えてしまう。 家庭学習の定着についてはまだ十分とは言えず、指導に改善の余地がある。 ２　観点別の指導方法について ①　話す・聞く能力 相手意識をもって話すことについて、日常の授業におけるフィードバックが不足していたのではないかと考える。また、発表の準備にあたっては、どのような観点に気を付け、どのような手順で進めればよいのかという具体的な指示が不足していたと考える。 ②　書く能力 書く単元だけではなく、書く機会を増やす必要がある。書くことに慣れておらず、書く経験が少ないと思われる。また、書くことが苦手な生徒に対する個別指導が必要である。 ③　読む能力 説明的文章・文学的文章どちらにおいても、重要な概念については授業の中で繰り返し強調してきた。しかし、その定着にはまだ至っていないため、今後も様々な文章の中で繰り返し指導を行い、定着を図る必要がある。 ④　言語についての知識・理解・技能 漢字だけでなく、文法や古文に関しても、学習内容の定着を図るために繰り返し学習させる必要がある。練習を怠りがちな生徒には、個別指導を行い、学習内容の定着を確認する。	１　内容別の授業改善について 自分の意見を書かせることで、まずは自分の考えをもつ習慣を定着させる。そのうえで、他者の意見についての疑問や、他者の意見から学んだことを振り返る時間を確保するなどして、自分の意見を他者の意見を聞くことで自分の学びになったという体験を積ませるようにする。 また、漢字などの基礎的事項については、一学期に続き毎日の小テストを継続していく。 ２　観点別の授業改善について ①　話す・聞く能力 自分自身の話し方や聞き方についての気付きを促していくため、ICT 機器の活用、他者からのフィードバックなどを積極的に取り入れる。また、日常から「話し方」「聞き方」に対して丁寧な指導を行っていく。 ②　書く能力 書く課題に取り組むたびに、学習ポイントが明らかになるように、板書と指導の工夫をする。毎回例文を提示するなど、書くことが苦手な生徒への手だてを行う。 ③　読む能力 発問に対する自分の考えを書く習慣を定着させ、粘り強く読み取る姿勢を培う。また、語いについて取り立てて扱うなど、より丁寧な指導を行っていく。 ④　言語についての知識・理解・技能 漢字の練習方法やノートの取り方が十分ではない。授業中の指示や板書を工夫し、プリントを多用しながら、ポイントが分かりやすいようにする。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第１学年・社会科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 定期考査の結果から、地理的分野では、気候帯の知識等、基礎的・基本的な語句は定着していると考えられる。歴史的分野では年表上の重要人物や重要語句等の知識を問う問題の正答率は高いため、同様に、一定の知識は定着している。 一方で、資料活用の技能や、思考・判断・表現力を問う問題の正答率は低い傾向にある。記述問題等を苦手とし、資料に基づいて一つの事象の原因について深く考えること、複数の事象の因果関係を考えること、また考えていることを表現すること等は特に苦手である。 **２　観点別分析** ①　社会的事象への関心・意欲・態度 授業では積極的に発言する生徒が多い。発言の少ない生徒も定期考査や提出物の状況から社会科を勉強しようとする意欲は高いと判断している。 ②　社会的な思考・判断・表現 自分の考えを発言する習慣は身に付いているが、一方で、一つの社会的事象について深く考える等の活動には課題がある。 ③　資料活用の技能 資料集や地図帳を扱う能力は身に付いているが、定期考査の結果では、資料に基づいて考える等の活動は苦手である。 ④　社会的事象についての知識・理解 基礎的な内容については理解している。一定の知識は定着しているため、家庭学習の習慣が身に付いている生徒は多いと考えている。	**１　内容別の指導方法について** 授業中には「記憶すること」「考えること」を重視し、重要語句を記憶すること、一つの社会的事象のポイントを理解しその原因・背景を考えることを重視している。 地理的分野、歴史的分野では、教科書や資料集を活用し、重要語句を説明して、確認している。教科書の内容も重点的に指導している。また、基本的な知識の定着を目標とし、生徒へ家庭学習を促している。 地理的分野では緯度・経度や雨温図の学習を苦手とする生徒が多いため、その都度、反復学習を行っている。歴史的分野では、都立入試の資料活用問題を意識し、資料集を教科書と共に、積極的に活用している。 **２　観点別の指導方法について** ①　社会的事象への関心・意欲・態度 授業では積極的に発言するように指導している。また、家庭学習の定着のために、ノートやワークブック等の提出を促している。 ②　社会的な思考・判断・表現 ４観点の中で最も全体の達成率が低い観点である。授業中に社会的事象の原因・背景の考察や、一つの社会的事象について考察するようなレポートを課題として出したい。 ③　資料活用の技能 授業内で説明した資料についても、理解が不十分な場合が多いため、今後も継続して指導したい。 ④　社会的事象についての知識・理解 知識の定着には一定の成果が出ていた。	**１　内容別の授業改善について** 地理的分野・歴史的分野では、資料活用問題を苦手としていた。地理では、緯度や経度、雨温図、メルカトル図やモルワイデ図等の世界地図の分類と特徴等を説明し、地図帳や資料集を授業内で活用し、資料活用能力の定着を促していく。今後は世界の諸地域を学習していくが、その都度、理解が不十分な内容については、反復して学習をし、既習事項を何度も確認することで、確実に学習内容を定着させる。歴史的分野では、その時代、その時代で人々の生活を、「政治」と「文化」の観点から学習していく。一人一人が「歴史観」をもつ上で重要な観点を徹底的に指導したい。 **２　観点別の授業改善について** ①　社会的事象への関心・意欲・態度 最近のニュース・時事問題に接する機会を設定し、授業内容が、日本の現状を理解する上で大切だということを指導し、学習意欲を喚起する。 ②　社会的な思考・判断・表現 記述問題を定期的に課し、文章で根拠等を表現する力の定着を図る。また、その時代ごとの背景や、一つの社会的事象の原因を反復して指導することで、思考力や表現力を伸ばしたい。 ③　資料活用の技能 教科書の資料については、そのタイトル、その資料が意味していること、そのグラフを理解することの意義等を徹底して指導する。 ④　社会的事象についての知識・理解 今後も継続して既習事項の知識の定着を図る。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第１学年・数学科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 「数と式」では、「正負の数」や「文字と式」の計算処理の問題の正答率が良い傾向は例年と同じであるが、ケアレスミスによる誤答も多く、詰めの甘さがやや多く見られる。この詰めの甘さは、思考力を問う問題についても同じ傾向にあり、しっかり問題の意味を把握することが今後の課題である。数学的用語や性質などの把握も全体的に詰めが甘い。 「関数」、「図形」の各領域については、二学期以降に扱うため、資料がなく定着状況を分析できないが、昨年までの傾向としては、空間的な認識や比例・反比例の意味、特徴などの読み取りが弱い傾向にある。 ２　観点別分析 ①数学への意欲・関心・態度 授業への取組はとてもよく、教師の発問に対しても意欲的に考え、発言する生徒が多い。課題などの提出状況は良いとは言えない。 ②数学的な見方や考え方 論理的な思考を必要とする問題にも、意欲的に取り組む生徒が多い。しかし、数学的考え方等の定着は不十分である。 ③数学的な技能 計算については、整数を扱った問題についての正答率は高いが、分数・小数を含む計算に関しては正答率も低くなり、今後の課題である。 ④数量や図形などについての知識・理解 数学的用語や性質などの定着をもっと高めていきたい。	１　内容別の指導方法について 「数と式」に関しては、数学的な用語・法則の内容把握を深めるとともに、多様な解き方を引き出すような指導を大切にしていきたい。「関数」については、ともなって変化する２つの数量について、数学的に規則性を捉える際、日常における様々な事例を扱うことを大切にしたい。「図形」に関しては、特に空間図形の内容把握を深めていきたい。また、数学的な用語・性質を理解させ、更にそれらの具体的な活用方法を理解させ、定着させたい。 ２　観点別の指導方法について ① 数学への意欲・関心・態度 授業の中で、様々な数学的事象に関連づけ数学的興味を喚起できるよう今後も指導していく。 ② 数学的な見方や考え方 問題の内容を正確に把握させ、焦点を絞り、何を問われているかを理解させるとともに、根拠となる性質を確認させていく。 ③ 数学的な技能 復習課題や小テスト等を利用し、内容の定着状況を確認しながら授業を進める。 ④ 数量や図形などについての知識・理解 用語・公式・性質の確認を機会あるごとに行うとともに、それらが成り立つ根拠を理解させる。	１　内容別の授業改善について 「数と式」に関しては、計算力を確実に向上させるとともに、多様な課題を取り上げ、既習内容の確認をしていく。「関数」では、日常生活の中から多くの事象を扱っていく。「図形」では、作図、平面・立体図形、展開図等の作成を通して、体験的に理解させる。図解による解説を多く取り入れるとともに、反復練習により定着を図る。 また、今後も習熟度別授業を通して、各コースともより効果的な内容となるよう、課題を精選し個々の生徒に応じた指導を行う。 ２　観点別の授業改善について ① 数学への関心・意欲・態度 日常生活の中から多くの事象を扱い、数学的興味を喚起させる。 ② 数学的な見方や考え方 図・表などの資料を活用し、問題を理解させ、解決へ導いていく。また、基礎的な文章題から段階を経て、徐々に発展的な問題が解決できるようにする。 ③ 数学的な技能 計算処理については、演習を多く取り入れ確実に定着させる。 ④ 数量や図形などについての知識・理解 数学的用語・公式・性質を丁寧に確認し、それらを根拠として利用する演習も取り入れる。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第１学年・理科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 １学期の定期考査や小テストを通しての達成率の平均は 78%であった。「花のつくりとはたらき」「葉・茎・根のつくりとはたらき」「植物の分類」「身のまわりの物質とその性質」の各分野ともに定着に特に大きな差はなく、同様に高い定着が見られた。 **２　観点別分析** ①　自然現象への関心・意欲・態度 １学期の評定資料での達成率の平均は 90%であった。授業に前向きに取り組んでおり、関心・意欲が高い。提出物の提出も良好である。 ②　科学的な思考・表現 １学期の評定資料での達成率の平均は 60%であった。科学的に考えること、考えたことを言葉やスケッチなどで表現することができる生徒と苦手な生徒の差が大きい。 ③　観察・実験の技能 １学期の評定資料での達成率の平均は 78%であった。楽しみながら観察・実験に積極的に取り組んでいるため、顕微鏡などの実験器具の操作や実験の手際は観察・実験を重ねるごとに良くなっている。 ④　自然現象についての知識・理解 １学期の評定資料での達成率の平均は 84%であった。基礎・基本の定着は全体的に高い。小学校での理科の知識の定着も良好なことが、関心・意欲の高さと相まって知識の高い定着につながっている。	**１　内容別の指導方法について** どの分野の内容についても、理科に対する関心は高い。ただおもしろいで終わることなく、「どうしてそうなるのか」ということを探求していくおもしろさを体験させていくことが必要である。 **２　観点別の指導方法について** ①　自然現象への関心・意欲・態度 自然現象への関心・意欲はとても高い。今後も、その高さを維持していくことが重要である。また、関心・意欲を他の観点にどうつなげていくかが課題である。また、安全に観察・実験を行う態度、生命尊重や自然愛護の態度を養う。 ②　科学的な思考・表現 何のために観察・実験を行うのかを常に意識させる。また、授業や観察・実験レポートを通じて考えたことを表現する場面を多くつくり、科学的な思考の充実を図る必要がある。 ③　観察・実験の技能 観察や実験を多く行い、実際にスケッチや実験器具の操作を行う機会をより多く与えることが必要である。 ④　自然現象についての知識・理解 学習方法の確立、日常の家庭学習の習慣化などについて更に指導する必要がある。	**１　内容別の授業改善について** 化学・物理分野では、グラフや作図、計算などに多くの生徒が苦手意識をもちやすい。演習の時間を十分確保していく。「目的を理解し、観察や実験を行う→いろいろな方法で結果をまとめる→結果を考察し、法則や仕組みを見つけ出す」といった流れの中で探求するおもしろさを体感させ、関心・意欲を引き出し、学習を深化させていく方法を学ばせる。 **２　観点別の授業改善について** ①　自然現象への関心・意欲・態度 身近な現象や身近な物の中から例を挙げ日常生活との関連付けを行い、演示実験だけでなく生徒実験を多く取り入れていく。 ②　科学的な思考・表現 授業や観察・実験レポートを通じて、スケッチで表現したり、考えたことを言葉や図に書いたりすることや、考えたことを発表する場面を多くしていく。 ③　観察・実験の技能 観察・実験を多く取り入れ器具の操作に慣れさせる。観察・実験の目的や方法を生徒に十分理解させるとともに、実験中は全体を見渡し、それぞれの班の様子を観察し、その場に応じた個別指導をする。 ④　自然現象についての知識・理解 演示実験や実物・模型を使って説明することや、板書やワークシートを工夫して理解を深めていく。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第１学年・英語科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 アルファベットの読み書き、身近な単語の読み書き、英語での簡単な問答については定着してきている。しかし、教科書を流暢に読むことや宿題への取組に関しては課題が残る。 ２　観点別分析 ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 英語に対しての関心・意欲は高く、授業でも積極的に声を出している生徒が多い。一方、宿題等の家庭学習への取組には課題が残る生徒も多い。 ②外国語表現の能力 「話すこと」…1 学期に行った ALT との面接では達成率が 82%だったので、基本的な問答については定着していると考えられる。 「書くこと」…アルファベットが定着し、黒板や教科書の文を正しくノートに写すことができるようになってきた。一部の生徒には課題が残る。 ③外国語理解の能力 「聞くこと」…日常生活の身近な単語、曜日、日付、天候等を聞いて理解することができる。定期考査での達成率は 92%であった。 「読むこと」…日常生活の身近な単語を読んで理解することはできるが、教科書を流暢に読むことに関して課題が残る。外国人講師による音読テストの達成率は 66%であった。 ④言語や文化についての知識・理解 聞いてわかる語い数は増えてきた。定期考査の達成率は 78%であった。「書く」「活用する」という点では課題が残る。	１　内容別の指導方法について 第１学年では、まず音声面を重視し、指導を行っていく。音声を中心とした反復活動を通して基礎・基本の定着を図り、その後、発展的な表現活動にもつなげていきたい。 家庭習慣の定着を図るため、継続的指導を行う。 ２　観点別の指導方法について ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 互いに学び、認め合う集団作りを目指し、指導する。また、生徒の声に耳を傾け、授業に反映させていく。 自主学習ができるよう、支援・指導する。 ②外国語表現の能力 「話すこと」…目標や目的を明確にした活動を提示し、そのゴールを目指して、積み上げ型の学習を行う。 「書くこと」…言えたことを書く、聞いたことを書く等、活動をつなげていく。また、自主学習ノートの活用をさらに推奨し、家庭学習にも「書くこと」を明確に位置づける。 ③外国語理解の能力 「聞くこと」…リスニング教材の活用を始め、授業内での教師の英語(Teacher Talk)を工夫することで豊富なインプットを目指す。 「読むこと」…初見の文を自分一人で読み進める経験がないので、段階的に指導していく。また、音読指導にも重点を置く。 ④言語や文化についての知識・理解 語いや基本文法の定着を重視して授業を行い、随時、理解を確認する。	１　内容別の授業改善について スピーチや外国人講師との面接等、ゴールを明示した活動を柱に据え、学習を積み上げる。 家庭学習の内容やねらいを明確化し、わかりやすく伝える。また、未提出者には放課後指導や再提出を促す等、個別に声かけを行う。 ２　観点別の授業改善について ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 今後も英語の歌やビンゴ等の楽しい雰囲気で授業を始め、生徒の活動中心の明るい授業を心がける。また、辞書指導を継続的に行う。 ②外国語表現の能力 「話すこと」…実際の使用場面をイメージしたペアワーク等に取り組む。また、外国人講師との面接等を学期ごとに設定する。 「書くこと」…聞いたことを書き取る Dictation の活動や学んだ文型を使った英作文等にも徐々に取り組んでいく。 ③外国語理解の能力 「聞くこと」…授業中の Teacher Talk だけでなく、外国人講師との活動やリスニング教材の活用も定期的に行う。 「読むこと」…短い英文読解から、段階的に指導する。音読については授業や家庭で練習時間を確保する。また、音読テストを実施する。 ④言語や文化についての知識・理解 今後もフォニックスや接辞学習を用いる等、語い数を増やす指導を行う。また、スペリングコンテストや基本文テスト等を行い、定着を図る。また、随時、追試等を行う。

授　業　改　善　推　進　プ　ラ　ン

第２学年・国語科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 平成 27 年度東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査（以下「学力調査」とする）」の結果、国語の総合平均正答率は 62.6%であった。教科の内容は 65.4%だが、読み解く力に関する内容は 46.2%と低い。得点の低い生徒の固定化が見られる。 ２　観点別分析 ①　話す・聞く能力 学力調査の正答率は 59.3%であった。話の内容を正確に捉えることはできるが、関心をもって学習に取り組む態度にはばらつきがある。また、話し方の工夫を考えたり、比較しながら聞いたりする力は不足していると思われる。 ②　書く能力 学力調査の正答率は 36.6%と、他の観点に比べて低い。理由を書く文で「なぜなら～から。」と書けない、主語と述語の不一致など、作文の基本が身についていない生徒が多々見られる。全体的に書く体験が少なく、書くことに慣れていないと感じられる。書くことに対する意欲、根気強さにもばらつきがある。 ③　読む能力 学力調査の正答率は 76.5%であり、際だって正答率が低い問題は見られなかった。ただ、個人差が大きく、説明的文章において資料を基に文章の中心について考える力にばらつきがみられた。 ④　言語についての知識・理解・技能 学力調査の正答率は 75.4%と高いが、漢字の小テストや考査などでは漢字・文法などの得点に大きな差がついており、得点の低い生徒が固定化する傾向がある。	１　内容別の指導方法について 日常の授業の中で、基礎・基本が定着するよう工夫しているが、個に応じた指導が徹底できているとは言い難い。授業に取り組む意欲を欠く生徒に十分に目が行き届いていないので、学習意欲を喚起し、学習態度を改善するまでに至っていない。 ２　観点別の指導方法について ①　話す・聞く能力 話を聞きながらその工夫を考える、疑問や自分の意見をもちながら聞く、という部分には課題が残る。また、関心をもって学習に取り組む、聞き手を意識するという相手意識をもたせることが課題である。 ②　書く能力 書く体験が少なく、作文に慣れていない。また、文章の型や例文を示すなどの指導の工夫を行ってきたが、定着するまでに至っていない。さらに個に応じた指導が行き届いているとは言い難いので、書く意欲の低い生徒の意欲を喚起するまでに至っていない。 ③　読む能力 資料の読み取りについては、目的に応じて資料の内容を整理することができないと感じられる。資料の一部だけに注目してしまい、的確に情報を読み取って考えをまとめることに課題がある。 ④　言語についての知識・理解・技能 漢字の反復学習の習慣が定着していない生徒が一定数いる。学習意欲を喚起し、学習習慣を身に付けさせることが課題である。	１　内容別の授業改善について 日常の授業観察から、視聴覚教材への興味・関心が高いことが見て取れる。ICT 機器を効果的に活用することで、生徒の学習意欲を喚起したい。また、個に応じた指導の充実を図るため、生徒の能力に応じた課題を用意するなどの工夫を積み重ねていく。また、個に応じた家庭学習課題を準備し、取り組むように指導を徹底することで、家庭学習の習慣を定着させたい。 加えて、生徒が意欲的に取り組める学習課題や教材の選定に取り組んでいく。 ２　観点別の授業改善について ①　話す・聞く能力 ただ話を聞くのではなく、関心をもち、考えながら聞くように指導する。相手の立場に立って聞く・話すということを、「話す・聞く」の単元だけではなく、日常から意識できるよう指導していく。 ②　書く能力 書く機会を増やし、文章の型や例を示すことで、抵抗なく生徒が課題に取り組んでいけるよう教材の工夫を行っていく。 ③　読む能力 発問に対して「自分の考え・意見」をもたせるように、日常から指導を行う。単元ごとに関連した本を紹介し、図書室を利用した学習を行うなど様々な本に触れる活動を取り入れていく。 ④　言語についての知識・理解・技能 漢字の小テストに文学史や文法事項の確認などを盛り込み、基礎・基本の定着を徹底させる。また、古典については百人一首の反復学習の機会を設けて、古典に親しみをもたせる。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第２学年・社会科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 今年度実施した東京都の学力調査の正答率は、62.5%であり、基本的な学力は概ね身に付いている。全体的に、複数の資料を読み取った上で、正答を考え導き出す問題や、小学校で学習した公民的分野に関わる問題、歴史の並べ替え問題などで正答率が下がる傾向がみられた。また、定期考査の結果からも、基本的な内容は定着していると考えられる。地理では、都道府県名や県庁所在地名を解答する問題の正答率が最も高かった。一方、都道府県名と県庁所在地名を逆にして解答する等の不注意もみられた。他に、短文記述の正答率は高く、意欲的に解こうとしていた。一方で、思考力・判断力・表現力を問う選択問題は、正答率が低い。歴史では、一問一答形式の問題の正答率は高かったが、歴史の流れを理解した上で、考え、判断する問題で正答率が下がった。 **２　観点別分析** ①　社会的事象への関心・意欲・態度 都の平均正答率は74%だが本校では82.5%であり良好である。意欲的に解答しようとしている。 ②　社会的な思考・判断・表現 都の平均生徒率は 56.9%だが本校では 67.8%であり良好である。選択問題の正答率は他に比べると低いが、短文記述問題の正答率は高い。 ③　資料活用の技能 都の平均正答率は 49.9%だが本校では 57.7%であり良好である。複数の資料を比較して解く問題では、正答率が下がる。 ④　社会的事象についての知識・理解 都の平均正答率は 52.0%だが本校では 58.1%であり良好であるが、やや二極化の傾向がある。	**１　内容別の指導方法について** 地理では、教科書に掲載されている統計資料やグラフのタイトルを読み、その資料が意味することを読み取るような学習を日常的に行っている。また、基礎的な知識の定着を重視し、ワークシートや問題集を学習することによって、確認している。また、家庭学習のために、ワークシートや調べ学習の課題、ノート提出を設定し、定期考査の終了後、チェックし、日々の学習を促している。思考力・判断力・表現力を培うために、授業時の発問を工夫し、発言時には根拠をもって考えることや、問題に正対し、正しい文章で答えることを促している。歴史においては、ＤＶＤなどの視聴覚教材を使用し、時代の大きな流れをつかみやすくしたり、資料集を使用し資料を読み取る際のポイントを示唆しながら、資料の利用に取り組ませた。全体として、複数の資料から考える力や、選択問題・正誤問題で正しく判断する力の育成が課題である。 **２　観点別の指導方法について** ①　社会的事象への関心・意欲・態度 授業時の発言やノートに自主的にメモをとることなどを促す。 ②　社会的な思考・判断・表現 自分の考えを文章化することや、根拠をもって考えることを指導する。 ③　資料活用の技能 毎時間資料にあたらせ、それぞれの資料が意味することを注意深く読み取るよう指導する。 ④　社会的事象についての知識・理解 定期考査の正答率は高いが、長い期間で見た時に知識が定着しているかが課題として残る。	**１　内容別の授業改善について** 資料を読み取る力や、選択問題・正誤問題等で正答を導き出す力を育み、知識をしっかりと定着させる指導を行っていく。全体としては、資料集を継続して意識的に使用していく他に、既習事項を定期的に復習する機会を設けていく。 地理では、授業内でも複数の資料を用いて一つのテーマや問いに沿って考えさせる活動を行う。また、生徒が自らの知識や、資料から読み取った情報を、整理して解答できるよう、場面ごとに丁寧に指導していく。また、ワークシートや、ワークブックへの取り組みを積極的に促し、定期考査を終えても、生徒の記憶に定着させるように工夫していく。 歴史では、時代ごとの特色を整理することに加え、テーマごとに流れを整理し、縦横両方向で歴史をとらえられるようにする。また、小テストの機会を増やし、知識の定着を図る。 **２　観点別の授業改善について** ①　社会的事象への関心・意欲・態度 視聴覚教材等を工夫し、生徒の授業への参加意欲を促す。提出物については、根気よく指導していく。 ②　社会的な思考・判断・表現 授業時に考える機会を設け、考えて書く活動を積極的に行っていく。 ③　資料活用の技能 複数の資料を用いて考える等の活動を工夫し、資料活用技能の向上を図る。 ④　社会的事象についての知識・理解 日々の授業内でも既習事項を復習し、知識を積み重ねていけるようにする。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第２学年・数学科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 今回７月に行われた都の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果を領域別にみると、次のようなことが分かる。 「教科の内容」に関しては、正答率も高く概ね良好といえる。都の平均 58.3% に対し、71.0%で+12.7 ポイント であった。また「読み解く力」に関しては都の平均 52.3% にたいして 64.2%で+11.9 ポイントであった。以上のことから、基本的な学習事項は定着していると考えられる。 ２　観点別分析 ① 数学への関心・意欲・態度 同調査の結果を見ると、都の平均正答率 89.0%に対し、本校は 91.0%で+2 ポイント と極めて良好である。今後もこの姿勢を継続させていきたい。 ② 数学的な見方や考え方 同調査の結果を見ると、都の平均正答率 30.5%に対して、本校は 43.0% で+12.5 ポイントであった。都の平均と比べやや高いがまだ改善点が多くあるように思われる。日々の指導の中で様々な解法を教えるよう心がけていきたい。 ③ 数学的な技能 同調査の結果を見ると、都の平均正答率 61.1%に対して、本校は 73.4% で+12.3 ポイントである。概ね良好であるが、計算ミスが目立つ生徒もいるので、計算練習等を今まで以上に行っていきたい。 ④ 数量や図形などについての知識・理解 同調査の結果を見ると、都の平均正答率 61.3%に対して、本校は 79.6% で+18.3 ポイントと良好であるが、定義などの理解に課題があると思われるため細かい指導を図っていきたい。	１　内容別の指導方法について 「数と式」に関しては数学的な用語・公式の内容把握を深めるとともに、多様な解き方を引き出すような指導を大切にしていきたい。 「関数」に関しては、数学的に規則性を捉える際、日常における様々な事例を扱うことを大切にしたい。 「図形」に関しては、数学的な用語・性質・定理を理解させ、それらの具体的な利用方法を理解させ、定着させたい。また、空間図形の内容把握を深める指導を大切にしたい。 ２　観点別の指導方法について ①　数学への関心・意欲・態度 授業の中で、様々な数学的事象に関連付け、数学的興味を喚起できるように指導する。 ②　数学的な見方や考え方 問題の正確な内容を把握させ、焦点を絞り、何を問われているかを理解させるとともに、根拠となる性質や定理を確認させていく。 ③　数学的な技能 復習課題や小テスト等を利用し、内容の定着状況を確認しながら進める。 ④　数量や図形などについての知識・理解 機会あるごとに用語・公式・性質・定理の確認を行うとともに、それらが成り立つ根拠を理解させる。	１　内容別の授業改善について 「数と式」に関しては、計算力を確実に定着させるとともに、多様な課題を取り上げ、既習内容の確認と多くの解決方法を示していく。「関数」に関しては、日常生活の中から多くの事象を扱い理解させる。また、表・式・グラフの関係を大事にしながら特徴を理解させる。「図形」に関しては、図解による解説を多く取り入れる。特に空間図形に関しては、立体模型などを利用して指導する。また、証明問題などは、反復練習により定着を図る。 今後も習熟度別授業を多く取り入れ、各コースともより効果的な内容となるよう、課題を精選し個々の生徒に応じた指導を行う。 ２　観点別の授業改善について ①　数学への関心・意欲・態度 日常生活の中から多くの事象を扱い、数学的興味を喚起させる。また、宿題などの提出を徹底するよう指導する。 ②　数学的な見方や考え方 問題を図・表などに表し、そこに具体的な要点を記入させることにより、問題を理解させ解決へ導いていく。また、簡単な文章題を理解させ、類題によって徐々に高度な問題まで理解できるようにする。その際、式の立て方を何通りか提示することなども配慮していく。 ③　数学的な技能 計算処理については、演習を多く取り入れ確実に定着させたい。単元ごとに小テストなどを行い、定着状況の把握も行う。 ④　数量や図形などについての知識・理解 機会あるごとに数学的用語・性質・定理・公式の確認をし、それらを根拠として利用する演習も取り入れる。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第２学年・理科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 都の学力向上を図るための調査では、正答率の平均は「取り出す力 59.5%」「読み取る力 34.0%」「解決する力 41.5%」と都の平均をそれぞれ上回った。読み取る力や表現する力が低いと、知識や考えたことをうまく表現できず、思考や知識・理解、解決する力にも影響して、正答率の低下につながると考えられる。自然現象への関心が高いが、教科の内容や読み解く力の向上につながっていない。 ２　観点別分析 ①　自然現象への関心・意欲・態度 都の学力向上を図るための調査では、正答率は94.0%と極めて高く、都の平均を上回った。提出物の提出も良好であるが、提出しない生徒が固定化している。 ②　科学的な思考・表現 都の学力向上を図るための調査では、正答率は55.4%で低い。読み取る力の低いことが影響していると考えられる。しかし、都の平均よりも上回っている。 ③　観察・実験の技能 都の学力向上を図るための調査では、正答率は60.3%で都の平均とほぼ同じであった。実験器具の操作やスケッチの仕方など繰り返し復習しながら指導する必要がある。 ④　自然現象についての知識・理解 都の学力向上を図るための調査では、正答率は56.3%で都の平均よりも上回った。さらに、基礎・基本の定着を充実させていく必要がある。	１　内容別の指導方法について どの分野の内容についても、理科に対する関心は高い。関心を思考や知識・理解につながるような工夫が必要である。ただおもしろいで終わることなく、科学的に理論立てて思考できるように指導していくことが必要である。また、読み取る力と表現する力を付ける工夫が必要である。 ２　観点別の指導方法について ①　自然現象への関心・意欲・態度 自然現象への関心・意欲は高い。今後、更に関心・意欲・態度を高めていくことが重要である。また、関心・意欲を他の観点にどうつなげていくかが課題である。また、安全に観察・実験を行う態度、生命尊重や自然愛護の態度を養う。 ②　科学的な思考・表現 授業や観察・実験レポートを通じて考えたことを表現する場面を多く作り、科学的な思考の充実を図るとともに、考えたこと、理解したことをいかに表現するかを指導していく必要がある。 ③　観察・実験の技能 観察や実験を多く行い、実際に操作を行う機会を多く与えることが必要である。 ④　自然現象についての知識・理解 学習方法の確立、日常の家庭学習の習慣化などについて更に指導する必要がある。	１　内容別の授業改善について 科学的な事象について、一つ一つ順を追って思考し、理解できるように、思考の過程を明確にしていくために、板書やワークシートの工夫をしていく。また、実験の考察の中で、「取り出す力」「読み取る力」「解決する力」を養うために、ワークシートの工夫をする。 ２　観点別の授業改善について ①　自然現象への関心・意欲・態度 身近な現象や身近な事象の中から例を挙げ日常生活との関連付けを行い、演示実験を多く取り入れていく。また、提出物が不十分な生徒への個別の声かけをしていく。 ②　科学的な思考・表現 授業や観察・実験レポートを通じて、スケッチで表現したり、考えたことを言葉や図で表現したりすることや、考えたことを話し合ったり、発表したりする場面を多くしていく。 ③　観察・実験の技能 観察・実験の目的、方法を生徒に十分理解させるとともに、実験中は全体を見渡し、それぞれの班の様子を観察し、その場に応じた個別指導をする。 ④　自然現象についての知識・理解 演示実験や実物・模型を使って説明することや、板書やワークシートを工夫するとともに、なるべく演習の時間を多くとり、知識の定着や理解を深めていく。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第２学年・英語科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 ５月に行った都中英研コミュニケーションテスト（出題は第１学年の範囲）では、都平均 69.7 点に対して、84.1 点で＋14.4 点であった。１年次の学習事項は概ね定着していると考えられる。 **２　観点別分析** ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 今年度に行われた都の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」によると都平均正答率 75.8%に対して、本校は 93.5%で、＋17.7 ポイントである。授業の取組も良く、今後も継続させていきたい。 ②外国語表現の能力 同調査の都平均 26%に対して、本校は 55%で＋29 ポイントである。プラスの値ではこの表現の能力が一番高い。それは第１学年で作った英語の音声の基礎が生かされていると考える。ただ、文と文との「つながり」に課題が見られた。 ③外国語理解の能力 同調査の都平均正答率 73.4%に対して、本校は 85.9%で＋12.5 ポイントである。英語の授業は基本的に英語で行っていることと、音読指導の徹底がその要因であると考える。今後も継続していきたい。 ④言語や文化についての知識・理解 同調査の都平均正答率 61.6%に対して、本校は 79.6%で＋18 ポイントである。定着の程度は概ね良好と言える。ただ、前置詞の理解に課題が見られたので改善したい。またこれまでの英語教育のように「知識偏重」にならないように注意したい。	**１　内容別の指導方法について** 第２学年では、第１学年で培われた「音声重視」の指導を継承しつつ、音声言語から文字言語への重点の移行を徐々に行っている。第２学年は指導事項が多く、定着の確認が課題である。 **２　観点別の指導方法について** ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 指導と評価との一体化を意識して授業実践を行った。特に「話すこと」と「書くこと」に関してはまとめとして必ずパフォーマンステストを用意し、それが意欲向上につながったと考える。 ②外国語表現の能力 「話すこと」では１学期間、Q&A 形式と説明形式の英会話練習を取り入れた。今後は“即興力”を課題に指導を行っていきたい。 「書くこと」では、１学年の３学期よりライティングノートの実践を行い、成果を上げている。今後は“正確さ”を課題に指導を行っていきたい。 ③外国語理解の能力 「聞くこと」では授業内での教師の英語(Teacher Talk)を工夫することが生徒のリスニング力をもっとも伸ばすので、今後も授業は基本的には英語で行うようにしていく。 「読むこと」ではまとまった量の英文を読む練習が不足しているので、３学期には多読を取り入れ読解力向上を目指したい。 ④言語や文化についての知識・理解 既習事項を繰り返し指導し、定着を図る工夫を行っている。今後も継続していきたい。	**１　内容別の授業改善について** 第２学年の重点課題は、指導事項の定着である。その対策として、２学期から第１学年の教科書を使用し、定着を図る活動（ラストセンテンスディクテーション）を行う。 **２　観点別の授業改善について** ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 生徒からの評価の高い英語の歌や英会話の活動で動機付けをし、パフォーマンステストで適切に評価をすることで意欲を高めていく。 ②外国語表現の能力 「話すこと」では、技能統合型言語活動を取り入れ、“読んだことについて話す”ということを意識して行い、またその記録を取ることで個々の能力の伸長を見取る。 「書くこと」では、ライティングノートの活動を続け、定期的に点検して意欲を継続させる。 ③外国語理解の能力 「聞くこと」では授業中の Teacher Talk だけでなくリスニングのタスクも定期的に課し、シャドウイング等の練習も取り入れる。 「読むこと」ではまとまった量の英文を読む機会を増やし、多読の活動も取り入れていく。 ④言語や文化についての知識・理解 既習事項を繰り返し学習できるワークシートを継続して活用し定着を図る。また語彙に関しては、受容語彙と発表語彙に分けて指導し、発表語彙に関してはつづりまで書けるように指導する。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第３学年・国語科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 本年度に入り多くの生徒が授業に前向きに取り組むようになってきた。学力の差は依然としてみられるが、昨年度意欲に乏しかった生徒の、提出物やワークシートの記述内容などに改善が見られる。 **２　観点別分析** ①　話す・聞く能力 本年度の「全国学力・学習状況調査」の正答率は全国平均を７ポイント程度上回っており、この調査からは際立った課題は見られない。スピーチに際して原稿を見ている生徒がだいぶ減少した。人前で発表する力は高まってきているが、相手の話に疑問や意見をもちながら聞く、ということについては課題が残る。 ②　書く能力 同調査の全国平均正答率を 12 ポイント程度上回っている。文章の基本的構成はほとんどの生徒が意識して書くことができている。一方で、伝えたいこととそれを支える具体例との関連が弱く、説得力がなく独りよがりな文章になりがちな傾向がみられる。 ③　読む能力 同調査の全国平均正答率を７％程度上回っている。調査では、全国平均同様、読み取ったことをもとに自分の考えを表現する問題の正答率が低かった。日常の学習活動からは、物語の心情読解については基本的な力は付いていると考える。一方で、説明文の論理構成を捉える力に課題がある。また、読む速度に課題がある生徒が一定数いる。 ④　言語についての知識・理解・技能 同調査の全国平均正答率を 10 ポイント程度上回っている。 期末考査などでは漢字の得点に大きな差がついており、低得点の生徒が固定化する傾向がある。	**１　内容別の指導方法について** 小テストなどは問題を予告し、やれば点数が取れる、という方法に変えた。そのことで、これまで学力に課題があった生徒も、その部分については前向きに取り組めるようになった。 一方で、読解・表現双方において語いが不足している傾向が見られる。語いを取り立てた指導を継続的に行ってこなかったことが原因と考える。 **２　観点別の指導方法について** ①　話す・聞く能力 発表することについては、日常取り組んでいる一分間スピーチも一定の効果があったのではないかと考える。相手の話に疑問や意見をもちながら聞く、ということについては、モデルをうまく提示できなかったことが課題である。 ②　書く能力 主張と具体例の関連性については、添削の段階でその都度指導をしているが、なかなか定着には至っていない。 ③　読む能力 音読の不足と語いの少なさが読解力に大きく影響している。これらの事項の指導不足が原因であると考える。 ④　言語についての知識・理解・技能 １学期は漢字だけであったが、文法・古典に苦手意識をもっている生徒が多い。２学期以降、これらの克服が課題となる。	**１　内容別の授業改善について** 「やればできる」という経験を積み重ねさせて、入試に向けても意欲の更なる喚起を図っていく。加えて、語いを取り立てた指導を組み込み、読解や表現にそれをつなげられるように指導していく。 **２　観点別の授業改善について** ①　話す・聞く能力 プレゼンテーションで相手・場面を意識した話し方の具体的な例を示すとともに、他者の発表に対して自分の意見をワークシートに書かせるなど、能動的に聴くということを意識するよう指導していく。 ②　書く能力 様々なタイプの課題に取り組ませるとともに、多くの課題に共通する「型」の定着を図る。また、説得力をもたせるための工夫については、生徒の作品も活用しながら具体的に示していく。 ③　読む能力 語いについての取り立て指導に加えて、教科書や初見の文章の音読トレーニングを行っていく。 ④　言語についての知識・理解・技能 漢字の小テストは継続的に行っていく。文法・古典については１・２年の学習内容の復習を計画的に組み込み、苦手意識が払拭できるよう指導の工夫を重ねていく。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第３学年・社会科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 １学期の評定における達成率の平均は、69.4％で、歴史的分野・地理的分野では共に基本的な学習内容の定着に一定の成果がある。 歴史的分野では、明治以降の外交や産業革命、二度の世界大戦など、諸外国の歴史も扱い、学習内容を難しいと考える生徒も多い。一方で、定期考査の結果を参考にすると、基本的な知識・理解は概ね定着していた。 一方で、資料に基づいて一つの事象の原因について深く考えることや、複数の事象の因果関係を考えること、また考えていることを表現することについては特に課題として挙げられる。 また、地理的分野では時差の計算や地形図や地図帳の読解を苦手としている生徒が多く、定期考査での正答率も低い傾向にある。 **２　観点別分析** ①社会的事象への関心・意欲・態度 多くの生徒が、授業中に積極的に発言し、ノートも積極的に書いて提出している。一方で時事的な社会問題等への関心については差がある。 ②社会的な思考・判断・表現 １学期の観点別達成率の平均は 64.5％と４観点の中で最も低い。理由を答える記述問題などは、比較的正答率は高いが十分ではない。 ③資料活用の技能 地図帳や資料集から情報を読み取る力の定着は良好であるが、複雑なグラフや統計資料からデータを読み取る問題の正答率は低い。 ④社会的事象についての知識・理解 ３年時の学習内容は概ね定着しているが、１・２年時の学習に関しては復習の必要がある。	**１　内容別の指導方法について** 授業では資料集を多用し、資料一つ一つの要点を読み取るように指導している。また、ノートには板書事項の他にも積極的にメモを取るよう促し、多くの生徒が工夫してノートを書いている。 歴史的分野では、ＤＶＤなどの視聴覚教材を活用し、当時の様子等を捉えるように工夫している。また、問題集を用いて、１・２年の学習を総復習している。 地理的分野では、プリントを用いて地名を確認し、特色を図表に整理する等の活動を行っている。また資料集の統計資料等を活用し、様々なデータや一次資料を捉える様な活動を積極的に行っている。 全体としては社会的事象を考察する際や問題解決を図る際の、思考・判断・表現力や資料活用技能を高めることが課題である。 **２　観点別の指導方法について** ①社会的事象への関心・意欲・態度 多くの生徒が意欲的に学習している。授業中には生徒が発言する機会を保障し、生徒が考える場面、書く場面、発表する場面等、様々な学習課題を設定している。 ②社会的な思考・判断・表現 自分の考えを文章化することや、一定の社会的事象を考察する力に課題がある。 ③資料活用の技能 複数の資料を用いた問題解決の機会を設定することが課題である。 ④社会的事象についての知識・理解 １・２年時の既習内容について、今後も継続して授業で計画的に復習していく。	**１　内容別の授業改善について** 自分の意見や考えを表現する力が身に付くように、今後はレポート作成等の学習活動の場面を設定したい。特に、公民的分野では、様々な状況の中で生じる社会的な問題に対し、「対立と合意」「効率と公正」といった観点で、自分の考えを根拠と共に明確に主張するということが重要である。 公民的分野の学習の中でも、社会的事象について深く考察するような場面を設定し、社会科としての思考力や判断力、そして根拠をもつ上での資料活用の技能等の充実を図る。 また、歴史的分野や地理的分野の復習も積極的に行い、苦手としている年表を活用した問題や時差の計算、地形図の読解問題についても知識の定着を図る。 **２　観点別の授業改善について** ①社会的事象への関心・意欲・態度 時事ニュースなど、生徒にとって身近な社会的事象を紹介して、関心を高める。 ②社会的な思考・判断・表現 自分の意見や考えをレポートに記述する機会や、社会的事象について深く考察する場面を授業内で設定する。 ③資料活用の技能 教科書や資料集以外にも、新聞やニュース等の複雑な資料や図表等も活用する。 ④社会的事象についての知識・理解 反復学習を継続して実施する。重要語句については小テスト等を行っていく。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第３学年・数学科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 １学期に取り組んだ「数と式」の領域（多項式・平方根・２次方程式）において、計算処理に関しては良好であるが、文章問題及び複合問題の正答率が低く、苦手な傾向にある。 全国学力調査の結果では、全ての領域において全国の平均より 12～13 ポイント高くなっている。 **２　観点別分析** ①数学への意欲・関心・態度 数学に対する取組は、概ね良好である。 ②数学的な見方や考え方 論理的な思考を要する課題に対して、授業としては取り組んでいるが、定着までには至っていない。同調査では全国平均よりも 12 ポイント高くなっている。 ③数学的な表現・処理 計算問題に関しては概ね良好である。しかし、分数・小数に対する苦手意識があり、解き方を理解していても、正解を導けないことがある。同調査では全国平均よりも 16 ポイント高くなっている。 ④数量・図形などについての知識・理解 数学的な用語・性質・定理などの定着が不足している部分がある。ただ、同調査では全国平均よりも 13 ポイント高くなっている。	**１　内容別の指導方法について** 教員間で進度を確認しながら、復習課題を実施した。また、学期末には、習熟度別授業３コース（基礎・標準・発展）を設定し、個々の生徒の実態に応じた課題に取り組んだ。これらのことは、各単元の復習・学力の定着に有効であった。 「図形」の領域に関しては、２学期以降の扱いになるが、模型や図を利用して視覚的に取り扱い、定着を図るための演習と共に、性質・定理の内容把握を深める指導を行っていきたい。 **２　観点別の指導方法について** ①数学への関心・意欲・態度 通常の学習時間の中で、様々な数学的事象に関連付け数学的興味を喚起できるよう今後も指導していく。 ②数学的な見方や考え方 問題の正確な内容を把握させ、何を問われているのかを理解させるとともに、解き方を確認しながら考えを深める授業にしていく。 ③数学的な表現・処理 小テストや復習課題を行い、多くの問題を解いて、定着を図っていく。 ④数量・図形などについての知識・理解 機会あるごとに数学的用語・性質・定理の確認をしていく。	**１　内容別の授業改善について** 「数量関係」・「図形」の領域については、１・２年の内容を確認しながら進めるようにする。また、計算問題などに時間をかけ、その際には分数・小数を扱い、計算力を確実に定着させる。 また、今後の習熟度別授業においては、各コースとも、より効果的な内容となるように課題を精選し、個々の生徒に応じた内容を提示していく。 **２　観点別の授業改善について** ①数学への関心・意欲・態度 生徒の興味を喚起できるように教員間で内容を精査し指導する。 ②数学的な見方や考え方 個々の生徒の実態に合わせた課題の工夫をしていくとともに、問題解決への方法を図・表を利用して説明し、理解させていく。 ③数学的な表現・処理 問題演習を多く取り入れ確実に定着させる。また、小テスト等を利用して、定着状況の把握を行い、生かしていく。 ④数量・図形などについての知識・理解 機会あるごとに数学的用語・性質・定理を確認し、それらがどう結びついているかを関連付けながら、授業を行っていく。

授　業　改　善　推　進　プ　ラ　ン

第３学年・理科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 １学期の学習を通しての達成率の平均は 73%であった。「生物の成長と生殖」、「遺伝の規則性と遺伝子」の単元では、形質の伝わり方やメンデルの遺伝の法則を含め、おおむね良好な定着が見られた。「水溶液とイオン」、「化学変化と電池」、「酸，アルカリとイオン」の単元では、実際のイオンのはたらきや実験での現象とイオン式での表現を結び付けられない等、理解の不十分な点が見られた。 全国学力調査の結果から、全国や東京都の平均正答率を比べると、地学領域が約５ポイント下回った。 **２　観点別分析** ①　自然現象への関心・意欲・態度 １学期の評定資料から達成率の平均は 87%であった。全体的に授業に前向きに取り組んでおり、発言も多く、提出物の提出も良好である。 ②　科学的な思考・表現 １学期の評定資料から達成率の平均は 61%である。実験レポートの考察に取り組む姿勢に大きな差がみられる。 ③　観察・実験の技能 １学期の評定資料から達成率の平均は 77%である。定着はおおむね良好である。全国学力調査の結果から、全国や東京都の平均正答率を約２ポイント下回った。 ④　自然現象についての知識・理解 １学期の評定資料から達成率の平均は 67%である。基礎・基本の定着は全体的にはまずまずだが、応用力を高める指導に工夫が必要である。全国学力調査の結果では、全国や東京都の平均正答率を約３ポイント下回った。	**１　内容別の指導方法について** どの内容でも分かる授業を目指し、特に観察・実験と問題演習に重点を置いて指導してきた。生徒たちはおおむねよく取り組んでいる。 **２　観点別の指導方法について** ①　自然現象への関心・意欲・態度 導入時に、生徒の知りたい、調べたいという気持ちを喚起する教材や発問の工夫が必要である。また、期限までに提出物の内容をより充実させるよう指導を行う。 ②　科学的な思考・表現 実験・観察の結果予想や結果の分析等、考察を行う場面を多く与えること、また、観察・実験の目的を明記し、レポートの評価基準を明確にするなど、評価方法を工夫することも必要である。実験レポートの（論理的な）書き方の指導も必要である。 ③　観察・実験の技能 実験や観察の場面を多く与え、顕微鏡の使い方やスケッチの仕方、薬品や実験器具の扱い方等、実際の操作の場面で、個別指導を行うことが必要である。 ④　自然現象についての知識・理解 家庭学習の習慣化と小単元ごとに問題演習を行うことが必要である。特に地学領域に関しての知識・理解の定着を図る工夫をする。	**１　内容別の授業改善について** 今後も分かる授業を目指し、観察・実験と問題演習をバランスよく行いたい。 また、記述式問題にも対応できるよう、論理的な文章の書き方の指導も丁寧に行っていく。 **２　観点別の授業改善について** ①　自然現象への関心・意欲・態度 実生活との関連性を考慮し、身近な現象や身近な物の中から教材として活用できるものを開発する。また、２年生までの既習事項との関連も意識した授業展開を行う。 ②　科学的な思考・表現 実験→結果→考察の授業の流れの中で、自分の意見を記述し、発表させたり、話し合ったりする場面をつくる。 ③　観察・実験の技能 実験の目的、方法を生徒に十分理解させ、実験中は常に机間指導を行い、きめ細かく個別指導を行う。 ④　自然現象についての知識・理解 生徒一人一人の学習状況の把握に努め、適切なアドバイスをするようにする。また、小単元ごとに問題演習を行いつつ、２年生までの既習事項の定着を促す問題演習も行う。

授 業 改 善 推 進 プ ラ ン

第３学年・英語科　　武蔵野市立第一中学校

学習の定着状況等の分析	指導方法の課題の分析	授業改善のための具体的方策
１　内容別分析 全体的に授業に対する取組は、昨年度より継続して良好である。しかし、１学期に行った定期考査では、生徒によって理解度が異なり、習熟度の差が明らかになった部分もある。１、２年生時学習した内容の理解が不十分で、ミスをしてしまうことも多く見られた。今後は、既習内容の復習も兼ねながら授業を行っていく。 ２　観点別分析 ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 以前と同様、ペアでのコミュニケーション活動などは積極的に行っている。また、１、２年時以上に提出物に対する意識も高まっている。 ②外国語表現の能力 「書くこと」については、苦手意識をもっている生徒も多い。定期考査での、英作文問題でもミスが多く見られた。「話すこと」についてALTとのインタビューテスト(Q and A)では、あらかじめ決めていた表現には対応できるが、自分でプラス１文することについては消極的であった。 ③外国語理解の能力 「読むこと」については、大体の内容は理解でき、単純な問題には答えることができるが、複合的な問題についてはミスをする傾向がある。 ④言語や文化についての知識・理解 基礎的な単語や熟語、文法問題については正答率も高い。単語テストなどを実施するすると、ほとんどの生徒がよく試験勉強している。	１　内容別の指導方法について 単純な日本語から英語に英訳する問題は解けるのに対し、絵の状況を説明したり、自分の意見を表現したりすることについて、苦手意識をもっている生徒が多い。また、単純な単語テストなどでは高い得点が取れても、英作文になるとミスをしてしまう生徒も多いので、単語や熟語についてもしっかりと指導を行っていく。 ２　観点別の指導方法について ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ペアでの学習活動を多く取り入れているため、ペアで学び合えるよう座席を組んでいく。 ②外国語表現の能力 上記したように、英作文に対して苦手意識が高い。英作文に特化した活動をより増やしていき、徐々に英作文への苦手意識を減らしていきたい。 ③外国語理解の能力 「読むこと」については、教科書以外の読み物だけでなく、他の教材を効果的に活用しながら、読むことに慣れさせていく。「聞くこと」については、定期的にリスニングを行っているため、継続していく。 ④言語や文化についての知識・理解 基本的な単語や熟語については、理解度は高い。より一層定着をさせるため、その単語や熟語などを使用した例文を多く示していく。	１　内容別の授業改善について 本校では少人数指導を実施しているが、個に応じた指導だけでなく、少人数クラスを巡回させ、複数の英語教員が生徒一人一人を見ることも効果的である。各観点においては総合的に定着を図ることができるよう、指導を行っていく。 ２　観点別の授業改善について ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ペアでの学び合いを大切にしながら、「英語でコミュニケーションをしていて楽しい」と思える言語活動を取り入れる。 ②外国語表現の能力 教科書の本文の最後に付け加える１文を考えさせたり、教科書の基本文を必ず入れたスキット（会話）をペアで考えさせたり、授業内で自分で考えた英文を書く回数を意識的に増やしていく。「話すこと」については、ALTとのQ and A でプラス１文に積極的に取り組めるよう、事前指導や助言を行う。 ③外国語理解の能力 「読むこと」に対しては、副教材で使用している「読みトレ」を毎時使用し、英文に慣れさせる。また、別の教材から初見の長文問題に取り組ませる。「聞くこと」については、定期的にリスニングの問題を行っていく。 ④言語や文化についての知識・理解 教科書の新出単語や熟語などについては、発音練習時に意味まで覚えられるよう指導していく。スペルミスが多い単語などについては、空中に指文字で書かせるなど、その単語について印象を付けさせる指導を行っていく。